

津島詣でマップ

津島下 街道編

地下鉄東山線岩塚駅(スタート)総距離15.1km(4時間10分)

- 2.6km : 40分→万場宿跡
- 4.3km : 72分→七宝焼原産地道標
- 3.0km : 50分→神守宿跡
- 3.0km : 50分→埋田追分跡
- 2.2km : 37分→津島神社(ゴール)

(注) マップの赤線上での距離、所要時間。所要時間は時速3.6kmで算定。



マップをジャバラに折ってコンパクトに畳んで使えます!

津島下街道を歩いてみよう!

* 津島下街道は、名古屋と津島を結ぶ街道で、かつての熱田から桑名までの東海道(七里の渡し)に代わる陸路中心の脇街道「佐屋路」の一部になります。下街道と佐屋路は、伊勢湾で繋がる熱田神宮、津島神社そして伊勢神宮を結ぶ道とも言えます。岩塚宿、万場宿、神守宿を通り津島神社に至る街道沿いには、宿場町の面影や由緒ある神社仏閣、旧街道の史跡があります。街道を歩いて津島に”詣で”しましょう!

山折D

23 津島神社

1460年以上もの歴史を誇る津島神社は、「西の八坂神社、東の津島神社」といわれ、全国

に3,000余あるといわれる「天王社」の総本社。疫病厄難除け、授福の神である建速須佐之男命(たけはやすさのおのみこと)を祀ります。楼門は豊臣秀吉、南門は豊臣秀頼、桃山式の建築美を誇る本殿は松平忠吉の妻からの寄進です。「津島の天王さま」と呼ばれ、多くの人に親しまれています。



尾張津島天王祭

(7月第4土曜日とその翌日の日曜日)



津島が誇る代表的な祭が「尾張津島天王祭」です。600年近くの歴史を持ち、まさに時代絵巻と言うにふさわしい荘厳・華麗な川祭です。平成28年には尾張津島天王祭の車楽舟行事がユネスコ無形文化遺産に登録されました。

尾張津島秋まつり

(10月第1日曜日とその前日の土曜日)



約300年前から始まったと言われ、豪華絢爛な山車(だし)が賑やかに繰り出す競演は見る人の心を踊らせ、車切(しゃぎり)やかからくりの奉納は見どころです。

また、鉦や太鼓を打ち鳴らす石採祭車(いしどりさいしゃ)、神楽や子供獅子などの祭事も行われます。

開扉祭

(おみと、旧暦2月1日)



旧暦2月1日に津島神社で執り行われる700年以上も続く重要な祭礼です。葎で作られた大松明を灯し、神社の楼門をくぐり抜

けます。その燃え残りは昔から「雷除」「歯痛止」「田の虫除」にご利益があるといわれます。

谷折D

21 天王川公園



かつて旧天王川の津島湊として栄えていました。今は尾張津島天王祭、藤まつりの会場になります。春の桜、初夏の藤(写真)・スイレン、秋の紅葉、冬の雪景色と四季折々の自然があり、「日本の歴史公園100選」として多くの人に親しまれています。

22 堀田家住宅



江戸中期に建てられた津島を代表する町家建築で国指定重要文化財です。火を通しにくい漆喰や土壁、また火事延焼を防ぐ「うだつ」や、泥棒の侵入を防ぐ「忍び返し」があります。入館料：一般 300円、小・中学生 100円 開館日：土・日曜日、祝日 ※平日(月曜日は休館)については3日前までに5人以上で予約が必要。開館時間：10時～15時まで

19 道標



津島上街道と下街道の交わるところ。「津島神社参宮道」と大きな石道標に書かれています。

20 津島市観光交流センター

地方都市に波及した昭和初期の典型的な銀行建築の意匠、装飾が残ります。敷地の奥には土蔵があります。

開館時間：9時～17時

休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)

以降の休日でない日、年末年始



山折D

16 大土社

大土社の祭礼である今市場祭は「尾張津島秋まつり」の一つとして山車を曳きまわします。社殿裏にはおもがるさんと呼ばれる石があります。さすれば子宝に恵まれるとの伝承があります。



15 十王堂

昔、庶民は死んだら冥土へ行き、そこで生前の罪業の裁判を受けるとされていた。その十人の裁判官である十王の地獄絵図などが残っています。



至佐屋：
(三里の渡し跡・佐屋宿跡)

13 埋田追分跡

津島神社の一之鳥居(昭和34年の伊勢湾台風で上部が失われ根石のみが残る)と、常夜灯の一对、追分をあらわす道標が残っています。江戸時代、ここから津島神社への道、佐屋宿への道へと分かれる所(追分)で、茶店などもありました。また、大正時代ごろまでは松並木が続いていました。



18 本町筋

旧天王川の名残でゆるやかなカーブを描く本町筋には、古い町家、商家などが今もなお残っています。



17 妙延寺

山号は津島山。日蓮宗のお寺です。戦国武将加藤清正が幼少の頃に手習いに通ったのがこの寺で、境内には「清正公草紙掛松」と呼ばれた松がありました。この松の幹の一部は、寺宝として大切に保管され、現在に伝えられています。



14 津島一里塚跡

かつての一里塚には楕円形の小山に大きな赤松があり、根本に稲荷の祠もありましたが、現在はその跡は残っておらず、塚の一部が清光院の境内になっています。※一里塚跡は旧街道沿いの通りからご覧ください。



①~②③ おすすめスポット

◀▶ 名鉄バス路線

🏯 津島神社ゆかりの神社

🏪 コンビニ・スーパー

☕ 喫茶店・飲食店 等店舗

🚻 トイレ

📍 津島市役所

📍 埋田町交差点の次の道路を左折してすぐに右折

📍 右が北

【津島下街道スタート・ゴール最寄り駅へのアクセス】

【スタート】

名古屋市営地下鉄東山線「岩塚駅」へのアクセス
地下鉄名古屋駅から約9分
名鉄バス「地下鉄岩塚」バス停へのアクセス
名鉄バスセンターから約13分

【ゴール(津島神社)最寄り駅】

名鉄 津島駅へのアクセス
名鉄津島線 名鉄名古屋駅から約22分
名鉄バス 名鉄バスセンターから約50分
名鉄尾西線 名鉄弥富駅から約10分

【コースを歩く前の注意事項】

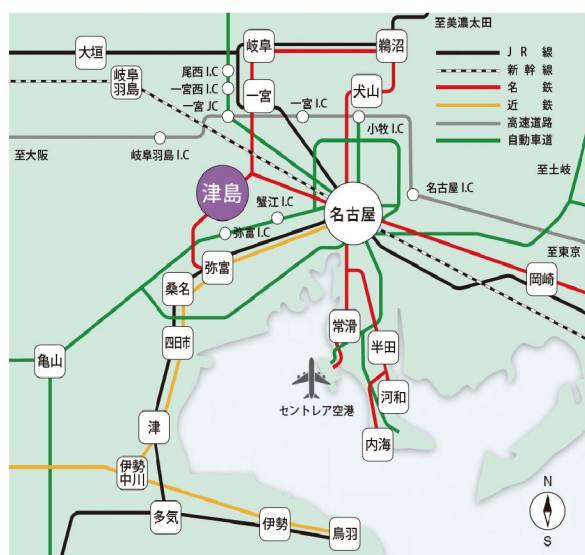
- ★適切な体調管理と適度な時間帯で散策するよう、各自の責任で安全にお楽しみください。
- ★交通量の多い箇所や道路の幅が狭い箇所があります。車や自転車などにお気をつけて散策をお楽しみください。
- ★散策中のけがや事故などに対して、発行者は一切の責任を負いかねます。
- ★開館・営業日時が設けられているスポットについては事前にご確認の上で散策し、寺社仏閣などの建物内に入る場合は、各自で了承を得てください。
- ★名鉄バスのバス停や行き先などは各自でお調べください。



津島詣でマップ【津島下街道 編】

発行：津島市
制作：一般社団法人にぎわい創出機構 OSH I
〒496-0807 愛知県津島市天王通り1丁目21番地
電話 0567-26-5700

↑その他、津島に関する情報はこちら！



※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図25000を複製したものである。(承認番号 平29情複、第1674号)
※このマップを複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければなりません。

裏面へ続く ↑

⑫憶感神社・吉祥寺

祭神は「憶感（おっかん）の神」で、水をつかさどる神様です。その他に心願成就、縁結び、家内安全、商売繁盛のご利益があります。吉祥寺は、憶感神社の神宮寺で境内には六角地藏堂があり旅人は道中の安全を祈ったと伝えられています。



⑪神守の山車蔵

文化年間（1804～1818）頃、憶感神社、穂歳社の祭礼として始まった神守祭は、現在、10月第1日曜日とその前日の土曜日に「尾張津島秋まつり（写真）」の一つの祭として開催され、美しい花飾りやかからくりで飾った3台の山車（だし）が曳き回されます。上町、中町、南町の3つの山車蔵があります。



⑩神守宿跡

万場宿と佐屋宿との間があまりにも長かったため、正保4年（1647）に設けられた宿場。かつては憶感神社を中心に宿屋・商家が立ち並び、今でも宿場町の面影が感じられます。また、明治天皇が東京に行幸したときにも休憩された場所です。



⑨養源寺

山号を神守山というように、神守宿を代表する真宗大谷派のお寺です。漆喰塗籠の六角堂が格式を偲ばせます。また、明治時代の名僧神守空観師は当寺の出身でした。



⑧神守一里塚

17世紀中ごろに設けられたと推定されるムクの老樹が茂る一里塚。一里塚は街道の両側に一里（約4km）ごとに設けられた塚で、旅人の目印でした。



⑦七宝焼原産地道標

尾張七宝は、江戸時代末に創始され、七宝町の町名の由来ともなっています。この道標は明治28年に建てられたもので、碑の上部に「Shippoyaki Toshi ma」とあり、七宝焼を買いつげに来る外国人を意識して建てられたと考えられます。



⑤ 自性院・高札場跡

街道沿いに高札場（幕府等の法度などを掲示した場所）跡があり、その東に自性院があります。自性院は、702年、創建と伝わり付近にあった3箇寺の法統と寺宝を受け継いでいます。



⑥ 明眼院とその道標

わが国最初の眼病治療所として知られる寺院です。後水尾上皇の皇女をはじめ、画家の円山応挙や国学者の本居春庭（本居宣長の子）などを治療したと伝わり、江戸時代には全国各地から多くの患者が押し寄せました。境内にあった書院は、「応挙館」と呼ばれ、東京国立博物館の庭園に移設されています。なお、明眼院への道標はかつて街道沿いにありました。

④ 国玉神社・光圓寺

延喜式神名帳にも記録されている由緒ある国玉神社、織田信長が斎藤道三の娘濃姫と接見した旧清洲町（清須市）聖徳寺の山門を移築した光圓寺（写真）など、この辺りは歴史ある雰囲気があります。



③ 万場の渡し跡と万場宿跡

万場宿と岩塚宿を結んだ渡船場跡。尾張名所図会には馬2頭、客9人、籠、船頭2人が乗ることができる大きな川船が描かれ、東西交流の多さを物語っています。また、この西側が万場宿だったところで、かつての宿場の風情が残ります。



② 七所社

尾張三大奇祭の1つで、名古屋市無形民俗文化財でもある「きねこさ祭」が旧暦1月17日に行われます。庄内川に立てた笹竹を登り、折れた方で吉凶を占います。境内に日本武尊（ヤマトタケルノミコト）腰掛岩と古墳（塚）があり、「岩塚」の地名の由来となったと言われています。



① 岩塚宿跡

佐屋路の四つの宿場（岩塚、万場、神守、佐屋）のうちの一つで、月の上旬は庄内川の対岸にある万場宿、下旬は岩塚宿が1つの宿として機能していました。現在では、宿場跡は住宅地に姿を変えています。

①~②③ おすすめスポット

- ↔ 名鉄バス路線
- 🏯 津島神社ゆかりの神社
- 🏪 コンビニ・スーパー
- 🍵 喫茶店・飲食店 等店舗
- 🚻 トイレ

↑ 右が北

